

## 第9回『民族共生の象徴となる空間部会』議事概要

日 時：平成22年12月16日（木）、17日（金）

場 所：永田町合同庁舎会議室

出席者：委 員：佐々木部会長、加藤委員、佐藤委員、篠田委員、常本委員

事務局：青木審議官、内閣参事官ほか

議事：

### 1. 「民族共生の象徴となる空間」の候補地について

- 候補地については、(社)北海道アイヌ協会の意見を踏まえつつ、従来からアイヌ文化の振興に取り組んでいる北海道内の市町村である札幌市、旭川市、苫小牧市、白老町、平取町、新ひだか町、釧路市及び帯広市の8地域を検討の対象とし、各地域の現況や取組状況等について、第7回作業部会（9月27日）において整理された候補地の要件との関係についての評価・検討が行われた。
  
- 各要件との関係については、以下の評価結果が確認された。
  - (1) 広大な自然空間（海、山、川等）や、豊かな自然環境が存在すること  
海・山・川、国公有林、自然河川では、札幌市、釧路市、白老町、平取町、新ひだか町が優位。
  - (2) 文化実践者・伝承者、学芸員等の人材が豊富に存在し、活動実績や素地があること  
アイヌの人口、文化実践・伝承者、学芸員では、札幌市、白老町、平取町が優位。
  - (3) 歴史・文化等の紹介・展示・体験等の施設や機能（博物館等）が存在し、活動実績があること  
アイヌの歴史・文化に関する公的な博物館等の施設・入館者数・アイヌ文物の展示等の取組、チセ・チャシ跡（城跡）では、旭川市、釧路市、白老町、平取町が優位。
  - (4) 地域のアイヌの人々による自主的な文化実践・伝承等の活動、取組みの実績があること  
アイヌ語・木彫・舞踊・刺繍等の文化実践・伝承活動、イチャルパ・カムイノミ等の儀式・儀礼、体験交流活動、河川における鮭の採捕では、札幌市、白老町、平取町、新ひだか町が優位。
  - (5) アイヌ文化の実践等に必要な植生のうち、共通性の高い植生が存在すること  
アイヌ文化の実践・伝承に必要な樹木・草本の植生では、各地域が同列。
  - (6) 地元の理解があり、協力体制が既に構築されていること又は構築可能であること（地方自治体、地域住民、民間団体等）

地方自治体におけるアイヌ施策の推進体制、アイヌ関係団体・行政・地域住民等との関係、地域の理解や協力体制の確保では、白老町、平取町、新ひだか町が優位。

(7) 観光振興の観点も踏まえ、国内外の人々が訪れやすい地域であること

観光入込客、宿泊客、交通アクセスでは、札幌市、苫小牧市、白老町が優位。

- 上記の評価結果や、地方自治体ヒアリング、現地視察、(社)北海道アイヌ協会の意見等を総合的に勘案した結果、作業部会としては、いずれの要件においても優位であり、特に自然環境や交通アクセスなど自然的・地理的な条件、アイヌ文化振興の活動の基盤となる人材や諸施設等の諸資源の集積、自治体と地域との一体的な取組体制において優れている白老町が、象徴空間の候補地として相応しいとの判断に至った。
- 今後、白老町を候補地として、具体的な施設・機能のあり方について検討を進めていくこととするが、その際、国、北海道、白老町、アイヌ関係団体等、関係機関との連携を密にするとともに、象徴空間とそれ以外の地域における取組みとの関係についても整理することの必要性が確認された。

## 2. 関係省庁との意見交換について

- アイヌ関連施策等を推進している関係省庁等（国土交通省、文部科学省、農林水産省、経済産業省等）との間でアイヌの伝統的生活空間（イオル）の再生事業、アイヌ文化振興関連施策、国立文化施設等、国有林野の利活用に係る制度、内水面における鮭の捕獲に係る制度、アイヌ伝統工芸に係る支援制度等に関する意見交換を行った。